

# 「山口県学校安全推進計画」(素案)に対する意見の募集結果について

「山口県学校安全推進計画」(素案)に対して、県民の皆様から提出いただきましたご意見、これに対する県の考え方、及びこのたび策定しました「山口県学校安全推進計画」を公表します。

## 1 公表する資料

「山口県学校安全推進計画」

## 2 提出いただいた意見とそれに対する県の考え方

### (1) 意見の募集期間

平成26年10月16日(木)から平成26年11月17日(月)まで

### (2) 意見の件数

11人 17件

### (3) 意見の内容と県の考え方

No.	意見の内容	県の考え方
学校の現状と課題及び方向性に関すること		
1	学校安全の目標にある、「周囲の人や社会の安全に貢献できる力」は、私自身その通りだと思う。実際の災害時には、中学生や高校生が活動していると聞きます。とても大切なことだと思う。	ご意見いただいた「周囲の人や社会の安全に貢献できる力」は、重要な学校安全の目標と位置付けています。本計画の推進を通して、避難訓練・主体的な安全活動等の工夫・充実を図り、子どもたちにこの力が身に付くよう努めてまいります。
2	図1の「総合的かつ効果的な取組」推進のイメージが、図の上段と下段の関連性が分かりにくい。そのため、山口県がどのような順序で学校安全の取組を進めて行こうとしているのかが分かりにくくなっている。 また、図の中の学校安全3領域の並びと、以下に述べられている6つの方針の並びが異なっている。	ご意見を踏まえ、取組と取組のねらい等の関係が分かりやすくなるよう取組内容を示すともに順序を整理いたしました。また、6つの方針の並び方を整理いたしました。
3	第1章に計画の体系が示されているが、6つの方針と、計画の各章の関係が分かりにくい。方針自体は、ぜひ進めて行っていただきたいことだと考えるので、検討を求める。	ご意見を踏まえ、6つの方針と本計画の各章の関係が分かりやすくなるよう、図表を修正いたしました。
安全教育の充実に関すること		
4	自転車乗り方の状況を見ると、指導改善がなされていないと言っても決して過言ではないように思う。並列走行などが単なるマナー違反ではなく、違法行為であるという認識を、生徒はもとより先生方自身ももたれた上で、適切な安全指導・教育が行われるなど、計画が、より実効性のあるものとなることを希望したい。	ご意見につきましては、計画で述べておりますように、教職員の安全意識の向上、家庭・地域、専門機関との連携強化を図るとともに、児童生徒が自分の自転車の乗り方を自ら確認・改善する自己理解・自己教育型の安全教育の充実を図り、安全指導・安全教育の実効性を高めるよう努めてまいります。

5	先日、小学校、中学校、幼稚園が一緒になった避難訓練を行っているニュースを見た。津波に対する訓練だったと思うが、中学生が小さな子どもの手を引いて避難する姿を見てとても感心させられた。最近、色々な所で大雨による災害も起きている。地域住民や保護者が参加した避難訓練も計画の中にあっただが、山口県の全体で行えるとよいと思う。	ご意見いただいた、同じ地域の様々な学校等が連携し、生徒が避難援助者の役割を担う防災避難訓練については、「周囲の人や社会の安全に貢献できる力」を育成する効果的な取組と考えています。ご意見を踏まえ、「訓練方法の工夫」の項に追加して示すことといたしました。
6	学校の避難訓練をしっかりと行って欲しい。子供達の命を守るために大切だと思う。	避難訓練については、法令等に基づき、防犯・防災に係る避難訓練を計画的に実施することとしていますが、形式的にならないよう、学校や地域の実情に即して、地震、津波、風水害等を対象とした訓練を実施すること、更には、予告なく行う訓練、地域住民や保護者等の参加を得て行う訓練等、より実践的な訓練を工夫して行うこととしています。
7	今年も、岩国や広島で土砂災害があり、大きな被害が発生している。東日本大震災や、今後、発生が予想される南海トラフ地震など、地震に注意が向きがちなのは分かるが、土砂災害への備えについてもう少し積極的な記述をするべきではないか。	近年、土砂災害が連続して発生している状況に鑑み、ご意見を踏まえ、「避難訓練の確実な実施」の項に、土砂災害に対応した避難訓練の実施についての記載を追加いたしました。
8	近年本県や広島でも起こった土砂災害への対策や対応を記載する必要があるのではないか。	
9	情報モラル教育を行うことも大切であるが、子どもたちの自主的な取組を行うことも有効だと感じている。計画に位置付けられないか。	情報モラル教育の実効性を高めるためには、子どもたちの自主的な取組が効果的であると考えています。ご意見を踏まえ、ネットトラブルを未然に防ぐための、児童会・生徒会活動を基盤とした、児童生徒の主体的な活動の推進について、計画に明確に位置付けることといたしました。
組織的取組の充実に関すること		
10	食物アレルギーのところにある「アドレナリン自己注射薬」は、何を指すのか分かりにくい、「エピペン」の方が、一般的に認知されていると聞いている。	「エピペン」が商品名であることから、計画においては、一般名である「アドレナリン自己注射薬」を用いています。 なお、資料編に解説と使用方法等を追加記載しました。
家庭、地域との連携体制の充実に関すること		
11	自分の子どもが、今、通っている学校では、避難訓練の様子や通学路の工事箇所など、学校のお便りで積極的に知らせている。子どもたちの安全に関わる教育は命に関わる大切なことであるし、親としても気になる。どの学校でも同	第2章の4において、学校の安全に関する取組を家庭・地域へ情報発信することの重要性を示しています。また、本計画と同時に策定する「学校安全推進プログラム」において、学校安全の取組を具

	じような取組をしていただきたい。そうすれば、保護者も自分にできることから、学校に協力できるようになると思う。	体的に改善する取組の姿を示し、学校の課題や特色などの実情を踏まえた取組が促進されるよう働きかけてまいります。
計画の推進に必要な事項に関すること		
12	計画には、様々な方向性や取組の示唆が盛り込まれていてよいと思うが、実際に安全の取組を進めて行くのは学校である。学校が、具体的にどのように取組を進めたり、保護者と連携したりするかを、教育委員会が示さなければ、結局は、学校の取組は変わらないと思う。実際、他の学校と比べてみると、取り組んでいる内容が違うことが多いように思う。	本計画と同時に策定する「学校安全推進プログラム」において、学校安全の取組を計画・実施・評価・改善のサイクルで具体的に改善していく取組の姿を示します。本計画に併せて、推進プログラムに基づいた実践を促し、各学校の取組の水準を向上させていきます。
資料編に関すること		
13	防災の取組は、消防との連携が必要と思う。消防の連絡先が分かるWebページ等を示した方がよいと思う。	資料編に、山口県の消防本部一覧等が掲載されている、山口県防災危機管理課のWebページのアドレスを示すことといたしました。
その他		
14	「避難訓練」「防災訓練」「防災避難訓練」等の言葉が使用されているが、これらは基本的な区別が必要であるのか。実際、読んだ限りでは区別がつきにくいと感じた。	ご意見を踏まえ、防災・防犯の区別のない場合は「避難訓練」、避難以外に防災技能の習得を目標とした訓練行う場合は「防災訓練」、防災についての避難訓練の場合は「防災避難訓練」として表記している旨、説明を付加いたしました。
15	誤嚥という言葉が出てきてるが、注釈が必要ではないか。100%の人に言葉の意味が伝わらないと思う。	ご意見を踏まえ、「誤嚥」に注釈を付加いたしました。
16	使用する数字が半角と全角（P33・34）があり統一されていない。	ご意見を踏まえ、1桁の数字は全角、2桁以上の数字は全て半角で表記するように統一いたしました。
17	最終ページの電話番号は市外局番が違うのではないか。	ご意見に沿い、市外局番を訂正いたしました。

山口県教育庁学校安全・体育課 学校安全班  
 担当：秋川 茂  
 電話：083-933-4673  
 FAX：083-922-8737  
 Eメール：akikawa.shigeru@pref.yamaguchi.lg.jp